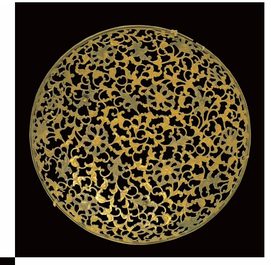
滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美

祈りの近江巡礼 至宝展



1 透彫華鬘
国宝
一枚　平安～鎌倉時代　神照寺

仏教の法会などで散らす花びらを入れる器で、かつては多くの装飾品がみられる。金属製の花弁や宝相華唐草文が透かし彫りであらわされた宝相華唐草文は、金属製であり、葵の葉、花びらは立体感をみせる。全体に鍍金を施し、金銅の輝きを放っている。これは、金銅製の装飾品を代表する優品。

2 地蔵菩薩立像
重要文化財
一軀　平安時代　延暦寺

穏やかで、慈悲深い表情の地蔵菩薩。ずんぐりとした体型で、衣文は、簡潔で、静かな雰囲気を漂わせる。一般的には、仏教の信仰の形態を表わした地蔵菩薩は、錫杖と宝珠をもつ。現れたかりの力がみなぎる。一般的に、浄土信仰の形態を表わした地蔵菩薩は、比丘の姿をとるとされるが、本像は錫杖を持たない古い形式の姿をとる。

4 華鬘
重要文化財
一枚　鎌倉時代　金剛寺

堂内の荘厳のために柱などに吊り下げて用いる厨具。インドで貴人に対して花輪（レイ）を掛けげる習慣が、仏教儀式として取り入れられたものので、優雅な唐草と天がぶりの蓮華が華やかである。また、蓮華唐草文のあしらいは、繊細さも持ち合わせた作品。

6 紺紙金銀交書法華経（巻首）
重要文化財
一巻　平安時代　延暦寺

紫で染められた美しい紺色の紙を用いた写経。文字は一行ごとに金泥で引くなど、贅沢なる。また、巻首の冒頭は金銀泥で引くなど、贅沢なる。また、巻首の冒頭は金銀泥で引くなど、贅沢なる。また、巻首の冒頭は金銀